



田中 弘 議員

本庁舎の建設について

問

① 駐車場は、十分に確保できるか。

② 津波対策はどうするか。

③ 大災害発生時に、防災拠点施設として機能できるか。

答

中村市長

① 庁舎南側の既存の駐車場の公用車18台を別敷地に移転することで73台、庁舎敷地内に19台分計画しており、合計92台の駐車が可能となる。新たに現在の図書館敷地に駐車場を確保すれば十分対応できる。

② 想定される最大津波高

の4mに対し、1階床高を可能な限り高く設定し、防水扉等による浸水対策を計画している。

③ 災害時でも独立性が確保できるよう、建築・電力・情報通信・給排水・衛生・空調の仕様について、財政面も考慮した上で可能な限り二重化等を実施し、防災拠点施設として、機能が十分発揮できるように計画したい。

答

庁舎建設課長

② 0・6mの盛り土をし、その上に0・6mの防潮扉を設置することで、4mの津波への対応を図る。扉の管理については、今後マニュアル化をして対応したい。

③ 災害対策本部は、3階に配置し、市民と混乱なく対応ができる。合併特例債が延長された場合でも、庁舎は現在地に建て替えと決定している。

項目	内容
敷地面積	1. 敷地面積は、現行敷地面積(約1,000㎡)を確保し、必要に応じて増設し、建物入口付近に余裕地を確保する。
フロア	1. 敷地面積の確保に努め、必要に応じて増設する。
フロア	1. 敷地面積の確保に努め、必要に応じて増設する。
フロア	1. 敷地面積の確保に努め、必要に応じて増設する。

本庁舎建設基本計画(案)

中山中学校体育館の建設場所について

問

建設予定地は、現テニスコートとなっているが、この場所に建設すれば、運動場が狭くなり、夏祭り・市民運動会、社会体育等に支障をきたすか。

答

春田教育長

建設予定地の選定には、メリット、デメリットを勘案した上で、校舎に隣接したテニスコートの場所が最適であると判断した。

メリットは、校舎に隣接することで移動時間が短縮され、緊急時の連絡等がしやすくなること。また、武道場を一体として整備することにより、事業費が削減され、施設の利便性の向上が図られる。

デメリットは、指摘のとおり、運動場の面積が狭くなる、職員室から運動場が見づらくなる、風通しが悪くなるなどである。

見通しや風通しの問題については、コンペでの設計条件に入れることにより、一定範囲解消できると考えている。

敷地の減少については、計画している体育館の規

模では、テニスコートのラインの内側におさまるように建設できる予定であり、さらに運動場と体育館の一体利用が可能となり、地域の運動会や夏祭りでの利用において、これまでとは違った利活用をしていただけると考

答

学校教育課長

武道場は、体育館と一体として建築することで、雨の場合にも、外でやる部活動の子どもも体力づくりに利用でき、避難所となった場合も、効率的な利用が図られる。



中山中学校テニスコート